

令和6年度 七飯町立七飯中学校 学校経営の基本方針 ～ 育成を目指す資質・能力の定着を目指して ～

2024. 4. 1

1 はじめに

本校は学習指導要領を踏まえ、育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、その意味や意義の理解を深めるなど、そうした準備段階を経て、昨年度半ばからこれまで、その実現を目指し鋭意取り組んできました。

とりわけ、総合的な学習の時間や特別活動（特に学校行事）について、プロジェクトチームを組織し、資質・能力を育成する指導の実際について試行錯誤し、一定の成果を得ることができました。また、校区小学校とともに9年間で育成する資質・能力について協議を深めるとともに、グランドデザインに基づいた取組に努めました。

さらに、資質・能力の育成や今日的な教育課題の解明を実効あるものにするため、分掌組織を改編するとともに、学級・学年組織の考え方等を整理し、教育相談の実施方法など、わずかではありますが改善に取り組んできました。

こうした土台に立ち、どんなに困難な状況にも主体的に立ち向かうことができる生徒の育成を信じ、「学校は社会の最先端」との意識を一層高く持ち、社会的に求められる学校の課題を解明すべく、以下に示す理念のもとに学校経営を進めます。

- ・教育に関する法令、学習指導要領、北海道教育推進計画
- ・七飯町教育振興基本計画（令和3年3月第3次改訂）等

2 学校教育目標（案）

- | | |
|-------------------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 自ら考え 主体的に活動する生徒 | Smart |
| <input type="checkbox"/> あたたく相手認め 高め合う生徒 | Respect |
| <input type="checkbox"/> 夢や目標に向かって 挑戦する生徒 | Challenge |
- 令和5年4月制定

3 学校経営の基本的な理念

〈基本理念〉

「新しい時代に相応しい、持続可能な学校の創造を目指します」
～ 一人一人の生徒の社会的自立を目指して ～

(根拠)

- ・これまで学習指導要領を踏まえ、本校が育成を目指す資質・能力を明らかにするとともに、その定着の実現に向けて約1年半、試行錯誤をしてきました。
- ・そうした過程で成果と課題が明らかとなり、今後一層「新しい時代の学校の創造」を目指した取組が必要です。

- 成果**
- ・資質・能力に照らした個人目標の設定により、自己決定の実現に向かう生徒の姿を確認できた。
 - ・これまで重点的に取り組んだ総合的な学習の時間や学校行事等を通じて、重点教育目標の実現に向かう教育活動の在り方をイメージできた。
 - ・学級や学年の在り方を工夫した取組により、生徒の目標実現への意識が高まることを実感した。
 - ・教職員の柔軟な組織の考え方により、教職員はもとより生徒の親和性が向上するとともに、保護者の信頼を向上させることにもつながった。
- 課題**
- ・上記の成果を、教育課程の改善・充実に資するためのマネジメントに生かすことが大きな課題である。
 - ・昨年度改編した分掌組織は一定の成果を発揮したが、継続して検証が必要である。
 - ・常に新しい学校の創造に向けて、適切に情報の発信・収集することが必要である。
 - ・社会に開かれた教育課程を実現するため、CSを軸として保護者や地域と「ともに」教育を進める仕組みが必要である。

4 本校が育成を目指す資質・能力（令和6年度の重点・・・継続）

自己決定を通して、「**発信する力**」を育みます。

5 経営方針

～ 全ての教育活動は資質・能力の育成に向けて ～

- 生命最優先
- 日常の業務が教職員としての研修となるよう、「根拠」を重視するとともに、情報の整理・発信を常に工夫します。
- 「子供を主語」にした教育活動を一層徹底し、コンパクト・スクールを目指します。
- 生徒が安心して自己決定できるよう、具体的な手法を用いて、学級・学年・学校全体で支持的風土の醸成に努めます。
- 校区小学校、町内中学校との緊密な連携を図るとともに、学校・家庭・地域がともに教育の主体者であることを自覚できるよう（社会に開かれた教育課程）、コミュニティ・スクール等の取組を進めます。
- 目標実現を目途に、教職員が主体性を発揮するとともに、教職にやりがいを感じる働き方改革を推進します。

6 経営方針を具現化するための留意事項

- (1) 日常の業務を通じて、教職の基礎・基本を学ぶことができる学校の在り方を一層追求します。
- ①最新の教育情報を収集し共有できるよう、分掌業務を工夫・徹底します。
 - ②学習指導要領など、常に根拠に基づいた教育活動を推進します。
 - ③「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の実現を目指した研修の在り方を一層工夫します。
 - ④学校の課題解決に向けて、常に「教育課程」を軸に具体的な方策をもってマネジメントに努めます。また、こうした取組が働き方改革と同軸であることを実感できるよう工夫します。
- (2) 資質・能力の育成を確実なものにするため、次の4点を徹底します。
- ①「伴走者」としての教師の役割の理解を深めます。
 - ②これまでの成果を生かし、学級や学年の在り方を工夫し、多様な集団活動を通じて「主語を子供」にした教育活動を徹底して進めます。
 - ③生徒の自己決定を促すよう「あなたはどうしたい？」の言葉がけを広げます。

④生徒が安心して自己決定ができるよう、学校全体で支持的風土を醸成する取組み（ガイダンスとカウンセリング）を進めます

(3) 公立学校としての役割と責任に立脚し、一人一人の教職員の資質・能力の向上（学び続ける教師）に努めます。

- ・今日的な教育課題の理解と効果的な実践のため、必要性を認識した研修の一層の工夫・実施に努めます。
- ・法的な根拠等についての整備に努めます。
- ・ともに支え合うことを目指した組織改編を今後も生かすこと、また検証し改善することに努め、よりよい組織の醸成を目指します。

(4) 目指す資質・能力を効果的に育成するため、ICT機器を効果的に活用するとともに、教育活動を徹底して重点化・焦点化し、「コンパクト・スクール」を目指し、教育効果の最大化を図ります。（教育課程を軸とした働き方改革を一層進めます。）

(5) アサーショントレーニングやピア・サポート、チャンス相談など、これまでの課題を踏まえ、実践を構造化するなど、ガイダンスとカウンセリングの充実により生徒の発達を支援し、自己決定を確かなものにします。

(6) 小・中学校9年間で育む資質・能力の育成に向けて、小中連携グランドデザインの確実な実施に努めます。

(7) 「社会に開かれた教育課程」を実現するため、本校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントに努めます。